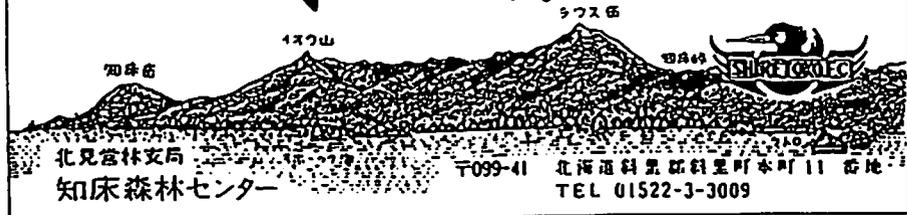


知床の森から



シリーズ「知床八景」

〔知床五湖〕



「知床半島に連想するもの」といえば殆どの人が「知床五湖」と答えるほど知床の代表的景勝地となった五湖。大小五つの湖が寄り添うように狭い半島の一端に集まっており、それぞれの湖名も一湖・二湖・三湖・四湖・五湖と忘れようにも忘れられない名が付いています。この五湖は知床硫黄山の山体崩壊によって大量の礫が運ばれ、その凹地に地下水が顔を出し形成されたものですが、流れ出る湖口もない五湖の水は溶岩と溶岩礫の間隙をくぐり抜け、100m以上もある断崖から一気にオホーツク海に落ち込んでいます。



〔氷結した知床五湖から知床連山を望む〕

訪れる人のない今、氷結した五湖はキタキツネなどの知床に暮らす動物たちが近道として利用しており、あと数週間もすると春の柔らかな陽ざしが湖面の氷を融かし、知床の連山たちがドレッサー替わりとして半年振りに姿を写すことでしょう。

待ち遠しい春

「未確認の植物を！」



知床半島は長さ65km・幅25kmの北々東に突き出た面積約10万Haの半島です。この半島に生育する植物は104科819種が確認されており、このうち2種は森林センターが生育を確認したものです。

知床半島に生育する植物は地形的条件等から総てが把握されておらず、今後あらたに追加確認される種も増えるものと推測されていますが、昨年4月に設定された知床自然観察教育林内にあるボンホロ沼でも未確認植物らしい数種を採取しましたが、時期的（晩秋）なことから同定は難しく雪解けを待って再調査し、森林総合研究所の協力を得て種の同定作業に入ります。



☆☆ 知床は今 ☆☆



〔雪上で見むオオワリ〕

知床沿岸から流氷が去って約1ヶ月、海岸線の荒々しい岩場には、掃りそびれた流氷塊が漂着時の鮮やかなパールグレーから乳白色の雪塊のように顔がなくなり変貌し、長い知床の冬の終わりを告げるかのように横たわっています。

この氷塊が消え、その友であるオオワシたちが北に旅立つ頃、アオジ・ノビタキなどの野鳥たちが南から春を連れて帰ってきます。

知床も「もうすぐ春」です。

☆ 盛況だった

「早春の知床・森林レク」



3月27・28日の両日、「春まだ遠い知床山系の麓を歩くスキーで探訪してみませんか！」と題した第8回森林レクを、知床自然観察教育林とその周辺地域を利用して実施しました。回を重ねる毎、地域イベントとして定着し人気も上昇してきたこの森林レク、今回は約30名の定員に対し80名以上の参加希望者があり、多くの人々のご希望に応えるため2日間に分けて実施するほどの盛況ぶりでした。

両日とも早春の穏やかな陽に恵まれ、コースにはまだ1mを越す残雪と起伏に富んだ樹林内を森林インストラクターのガイドで7歳から76歳まで幅広い層の人々が元気に歩きました。約7kmのコース沿には春を待つ膨らみかけた木々の芽、うっすらと積もった雪上に残されたキタキツネ・エゾライチョウの足跡、クマガラの食事跡と鳴き声、そして立ち木に刻まれたヒグマの爪跡など・・・観るもの全てが写真・映像では味わえない「3次元の自然の素晴らしさ」に「トレンディ」と叫ぶ声も聞かれました。



〔森林レクを楽しむ参加者たち〕

美人レポーター「森林レクに同行取材」NHKで放映



〔取材の一場面〕

今回実施した森林レクにNHK北見放送局が取材のため同行し、「知床早春ウォチングを楽しむ参加者達の姿と知床の自然」を収録しました。

放映日時は4月9日（火）AM11:30~12:00までの新番組「ほっからんど212」で紹介されます。テレビカメラを意識し平坦地で転ぶ人、美人レポーターの質問にいつもの弁才？はドコエ・・・。（是非、視聴してください！）